

テーマ1「国民への普及啓発・情報発信等」

# 活動報告

幹事団体

公益社団法人 日本産科婦人科学会

池田 智明

# 公式HPをベースとした普及啓発

- 各団体の活動を、皆が周知するのに役立つ
- 各参加団体が、コラボレーションして、新しい活動の切っ掛けとなる
- 将来的には、一般の方々の悩み相談などの機能も持たせる

# 歯・栄養の問題

- むし歯、歯肉炎は大きな問題
- お母さんの歯を良くしようと思ったら、子どもの歯からのアプローチが効果的
- 思春期の歯の問題は、小児歯科からもアプローチが難しいが、学校歯科保健活動などを通じてつなげるべき
- 妊婦になって食習慣や歯科保健の意識を変えるのは難しい

日本歯科医師会  
日本小児歯科学会

# ライフサイクル

思春期

性成熟期

更年・老年期

乳幼児



# 母乳の問題

- 赤ちゃんに優しい病院(WHO)
- 母乳育児支援セミナー
- 妊娠・出産前から女性が自分の健康に関心をもって、主体的にお産をして、そのうえでの育児という中で、母乳育児という視点が必要

日本母乳の会

日本母乳保育学会

日本ラクテーション・コンサルタント協会

# 育児の問題

- ネウボラ活動  
(母子保健推進会議)
- スマホマザー: 子供よりもスマホに熱中  
(母子健康協会)
- 親子で身体を動かすと育児によい、健康運動  
指導士  
(健康・体力づくり事業財団)

# ライフサイクル

思春期

乳幼児

性成熟期

更年・老年期

# その他

- 子ども療養支援士
- 病院機能評価事業の審査項目に「子どもの医療」を  
(子ども療養支援協会)
- 子供の不慮の事故、SIDS  
(日本赤十字社、日本SIDS・乳幼児突然死予防学会)

# テーマ2「育児支援等」 活動報告

幹事団体  
公益社団法人 日本小児保健協会  
加藤 則子

# 進め方の大枠

- 1. ベースコンセプト
- 2. 活動の軸
- 3. 活動の活性化のために
- 4. 幹事団体内の体制整備

# 1. ベースコンセプト

- ベースコンセプト：乳幼児期の支援は、将来起こる問題の予防に極めて効果的な方法である
- 支援の例：待機児童の解消や、子どもの貧困、虐待対策、母親の正規雇用
- 効果の例：生活保護受給者を減らし、犯罪などを抑止してゆくななどが可能となる。
- 支援や効果をこういった広い視点でとらえてゆくことも重要

## 2. 活動の軸

- (各団体の活動に落とし込む、また可能であれば、テーマグループでイベントなどを開催する)
- a. 親の心身の健康にも目を向けケアを充実させる
- b. 情報提供(HPの充実)
- c. 親機能の支援

## 2. 活動の軸

### a. 親の心身の健康のケアを充実

- 乳幼児健診など、子どもの健康にのみ目が行きがち。これへの反省。産後のからだの回復や、心身のトラブルの悩みなどに対応して行くことが重要。
- 保育所に助産師を置いて、母親のケアも行うなど。
- 出会った時がチャンスなので、いつでもどこでも相談できる環境が必要。
- たとえば母乳のテクニックだけと言うのではなく、お母さんに自信をつけてもらうことが重要

## 2. 活動の軸

### b. 情報提供(HPの充実)-1

- 例: 日本歯科医師会 動画のアップやトピックス記載による子どもの口腔成育やトラブルの対応などの情報提供
- 例: 日本小児歯科学会 リーフレット、HPの質問箱 正しい知識と身近な疑問に対する学術的回答
- 例: 日本小児保健協会 HPでの動画の紹介

## 2. 活動の軸

### b. 情報提供(HPの充実)-2

- ホームページのリンクは、一般の方のあまり見ない学会のトップページに飛ばすのではなく、身近に必要なとなってくる情報に行きつく必要がある
- ワンストップで疑問を解消できるホームページ作りができるとうい
- 母子健康手帳に情報が提供されているHPのことを分かり易く記載する
- 健やか親子21が地域の関連団体に知られるよう、地域に根付いてゆけるよう、努力してゆく

## 2. 活動の軸

### C. 親機能の支援

- 親の果たす役割イメージを作る機会がなく親になる人が多くなっている印象がある。職域なども含めて、こういった親を支援してゆく必要がある
- 個別支援、グループ支援、ペアレントトレーニングによる支援など

### 3. 活動の活性化のために

- メーリングリストによる活発な意見交換
- 各団体の活動がどの指標の改善を目指しているかの整理
  - 例：日本歯科医師会 「むし歯のない3歳児の割合」「子どものかかりつけ医を持つ親の割合」「仕上げ磨きする親の割合」
- 各団体の個々の活動の特徴と内容を精査し整理する

### 3. 活動の活性化のために 各団体の個々の活動の特徴と内容

- テーマグループ内の有機的連携と横断的活動のために、
- 各職種がいろいろな場面で育児支援にどのようにかかわっているかの整理
  - 多職種が同じ目的に向かい活動している団体の例：
  - 職能団体の例

### 3. 活動の活性化のために 多職種が同じ目的に向かい 活動している団体の例：

- 日本タッチケア協会 技術を持った専門家の養成という目的によって助産師、保育士、栄養士など多岐にわたる職種の会員が集まっている
- 保育保健協議会 あらゆる保育に関わる人
- 日本母乳保育学会 育児に関する多職種 科学的根拠のある母乳保育
- 日本産業衛生学会 職域での育児支援 多分野からの活動となる
- すくすく子育て研究会 小児科医、精神科医、産業医の協働
- ラクテーションコンサルタント協会 医師、看護師等いろいろな職種。母乳育児について考え、資格を出している

### 3. 活動の活性化のために 職能団体の例：

- 日本助産師会 職能団体であるが、助産所や病院だけでなく地域でも情報等を共有しながら活動し、切れ目のない支援に貢献している
- 日本臨床心理学会 乳幼児健診時の支援が活動テーマの主なものである
- 日本看護協会 3つのテーマグループにかかわっている。専門職が育児支援をすることの支援
- 職能団体も一つの職種にとどまるのではなく連携を望んでいるところがほとんどである

# 3. 活動の活性化のために

## 平成27年度 日本看護協会の取組み ～健やか親子21(第2次)の目的を叶えるために～

**①被災地における事例検討会の開催支援**  
複雑困難化する母子をめぐる課題解決・虐待対応等の力量形成を目的として、精神科医および保健師といった専門家を派遣し、事例検討会の開催を支援。(福島県沿岸部の市町村保健師等対象)

**②全国地域包括ケア推進大会の開催**  
全国の保健師らを主な対象に開催。地域シニア男性による育児支援事業の紹介など、子どもの健やかな成長を見守りはぐくむ地域づくりの実践や、推進に向けた保健師の取組等の情報共有。

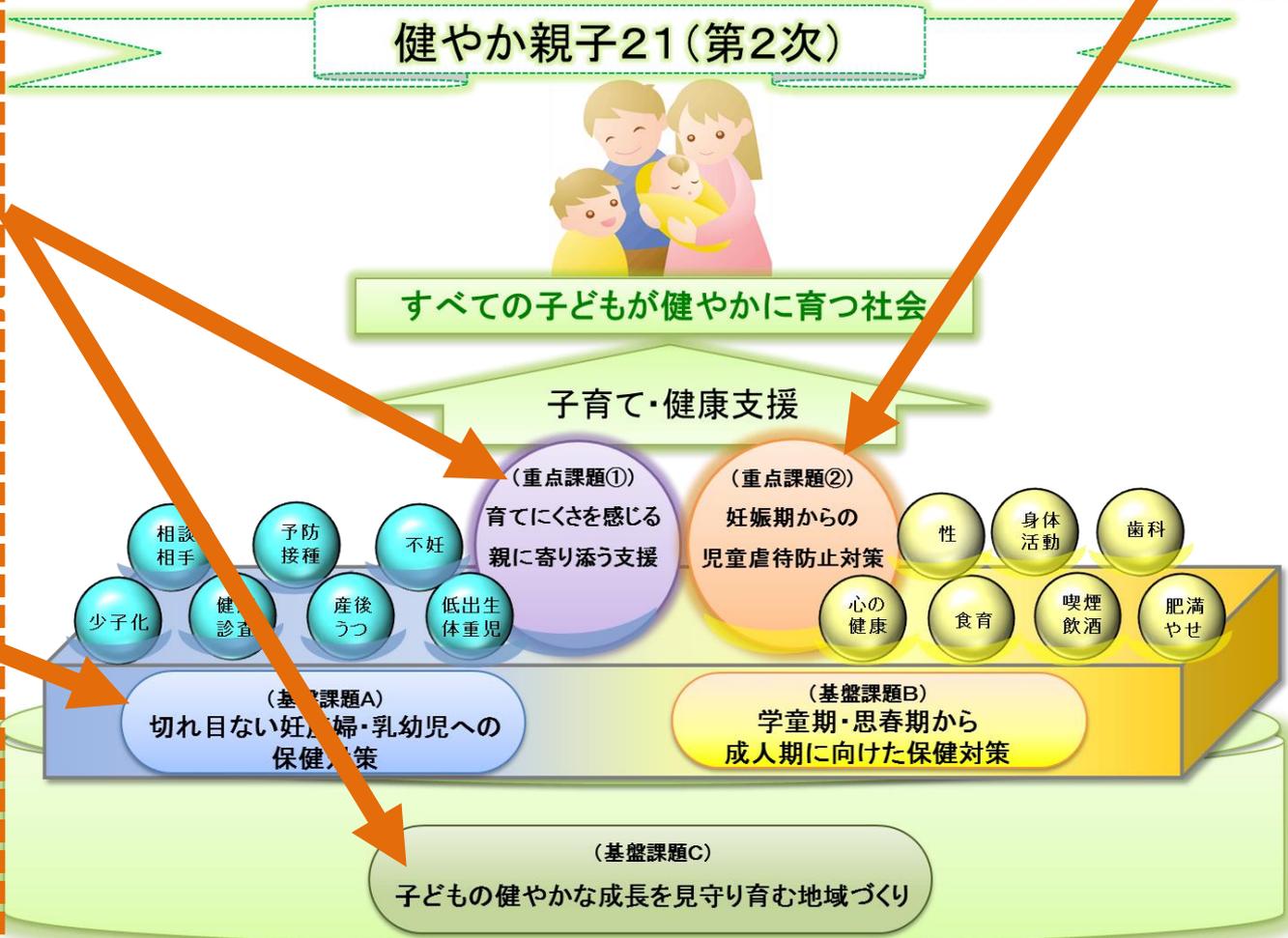
**①看護の将来ビジョンに位置づけ**  
「健やかに生まれ育つことへの支援」を看護ビジョンの中に明記。看護職が役割・機能を果たし、切れ目ない支援を地域づくりを含めて実現することを目指す。

**②意見の集約**  
「健やか親子21(第2次)」の指標について、47都道府県助産師職能委員長からの意見を集約し、今後の活動に反映。

**③退院支援に関するフォーカスグループインタビュー**  
NICU/GCU退院児とその家族における小児在宅療養支援に関するフォーカスグループインタビューの実施(総合周産期医療センター・訪問看護ステーション看護職対象)を実施。次年度計画に反映。

**④地域母子保健推進シンポジウム開催**  
全国の助産師や保健師らを対象に、有識者による講演や、妊娠・出産・子育て支援の切れ目ない支援に向けた実践発表等の共有。

**【再掲】**  
・被災地における事例検討会の開催支援  
・全国地域包括ケア推進大会の開催  
・退院支援に関するフォーカスグループインタビュー



## 4. 幹事団体内の体制整備

- 日本小児保健協会が幹事団体として十分に機能してゆくために組織的に取り組む
- 健やか親子対応チームの編成

# テーマ3「児童虐待防止・対応強化」 活動報告

幹事団体

一般社団法人 日本小児救急医学会

市川 光太郎

# テーマグループミーティングでのまとめ

- 児童虐待防止と対応強化では、熱心なご意見をいただいた。
- 二次予防より、虐待予防に力を入れなければいけない。
- 健診を受けていない、虫歯を治してもらえない子など、口腔内の環境も虐待発見の重要なサイン。場合によっては、そういった家庭に手を差し伸べていくことも必要。
- 妊婦健診未受診者への対応、出産直後の母の心のケア、乳幼児健診時の母のケア、就学時健診の重要性についても活発な意見が出された。
- 高校生への妊娠出産についての教育もすべきという意見もあった。

# 児童虐待防止医療ネットワーク事業

テーマ③

厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課

## 1. 事業目的・内容 ※「児童虐待・DV対策等総合支援事業」のメニューとして実施

### (1) 目的

児童虐待の相談件数は年々増加しており、小児救急現場でも頭部外傷をはじめ身体的虐待を疑わせる子どもの受診も多い。しかし、医療機関においては知識や経験が不十分だったり、組織的対応の体制がない場合もあり、十分に対応ができていない状況である。このため、地域医療全体で児童虐待防止体制を整備することを目的とする。

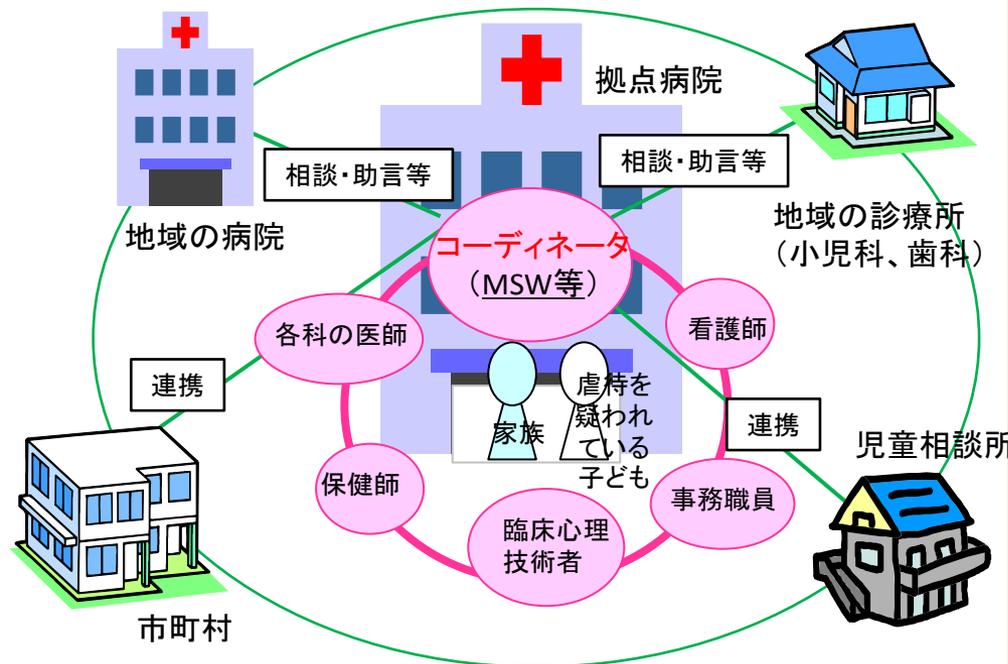
### (2) 内容

都道府県の中核的な小児救急病院等に、児童虐待専門コーディネータを配置し、地域の医療機関に対する研修、助言等を行い地域の児童虐待対応体制の整備の底上げを図る。また、当該中核病院における児童虐待対応体制の整備を図る。

## 2. 実施主体 都道府県

## 3. 補助率 国1/2(都道府県1/2)

### <児童虐待防止医療ネットワーク事業の体制>



### <児童虐待専門コーディネーターの具体的な役割>

拠点病院が行う以下の事業において、窓口となり、院内及び地域の関係者との連絡・調整を行う。

- ①地域の医療機関からの児童虐待対応に関する相談への助言等
  - ・地域の医療機関で児童虐待の医学的判断、保護者との接し方等の対応に迷う事例があった場合の相談を受け、留意点等について助言を行う。
  - ・救急搬送での対応事例について、地元の医療機関にフィードバックを行う。
- ②地域の医療機関において、児童虐待対応ができる体制整備のための教育研修
  - ・都道府県と協力し、児童虐待の教育研修を企画・運営し、地域全体の児童虐待防止対応能力向上を図る。
  - ・医学的所見等についての症例検討会を企画し、児童虐待の早期発見、支援を行う体制を整える。
- ③拠点病院における児童虐待対応体制を整備
  - ・院内に児童虐待対策委員会を組織し、児童虐待対応マニュアルを作成する。
  - ・委員会を開催し、医学的所見や本人や保護者等の情報等を共有し、対応方針・役割分担を決定するなど、児童虐待対応の整備を図る。

# 福岡県児童虐待防止医療ネットワーク事業

2014年開始

## 四拠点病院対応

人口255万人  
15歳以下=36万人

福岡地区

福岡大学病院

北九州地区

市立八幡病院

人口129万人  
15歳以下=16.5万人

筑豊地区

麻生飯塚病院

人口42.4万人  
15歳以下=5.3万人

筑後地区

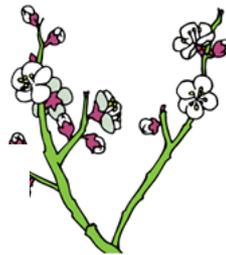
聖マリア病院

人口82万人  
15歳以下=10.6万人

人口509万人  
15歳以下=68.5万人



ツツジ

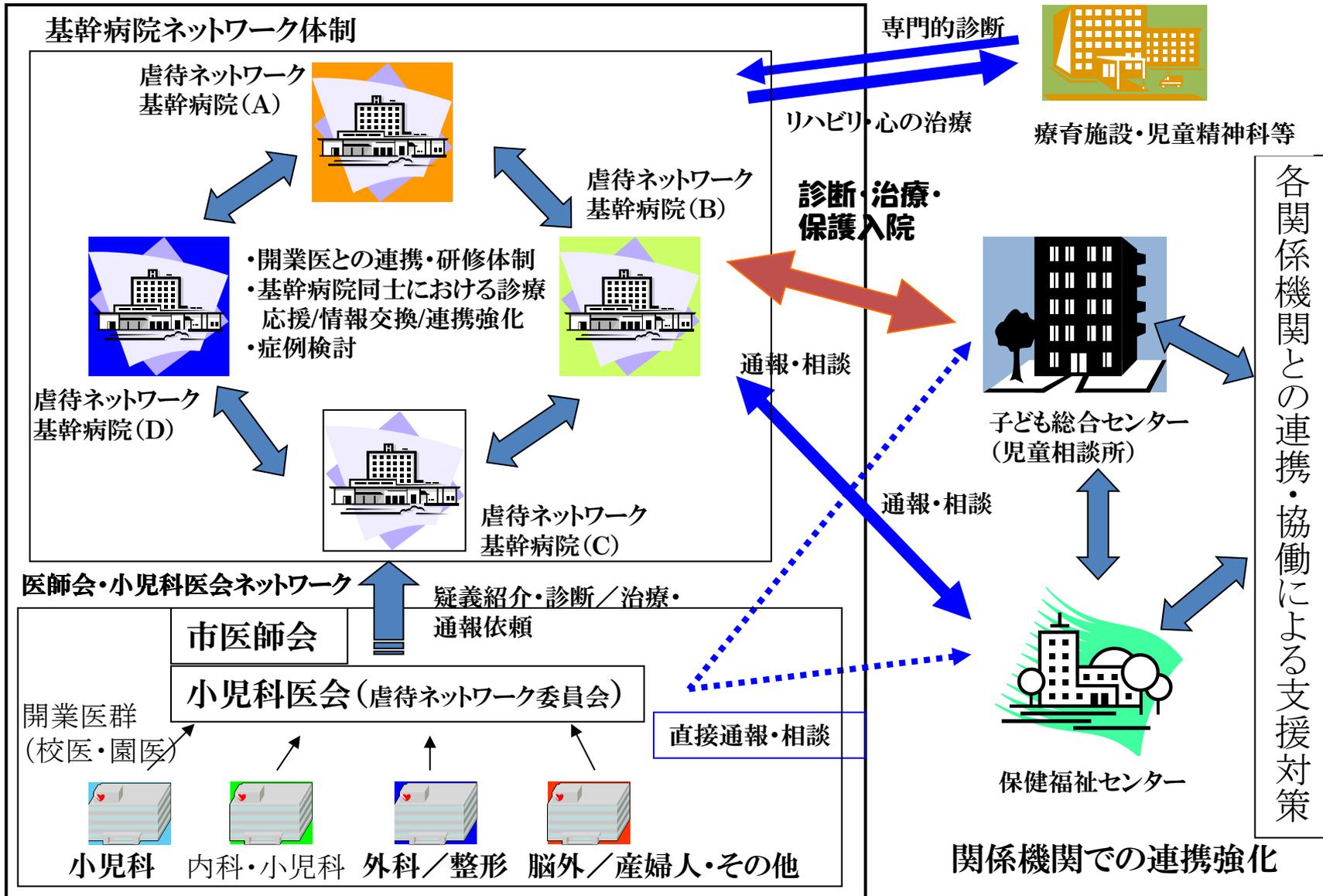


梅

鶯  
福岡県

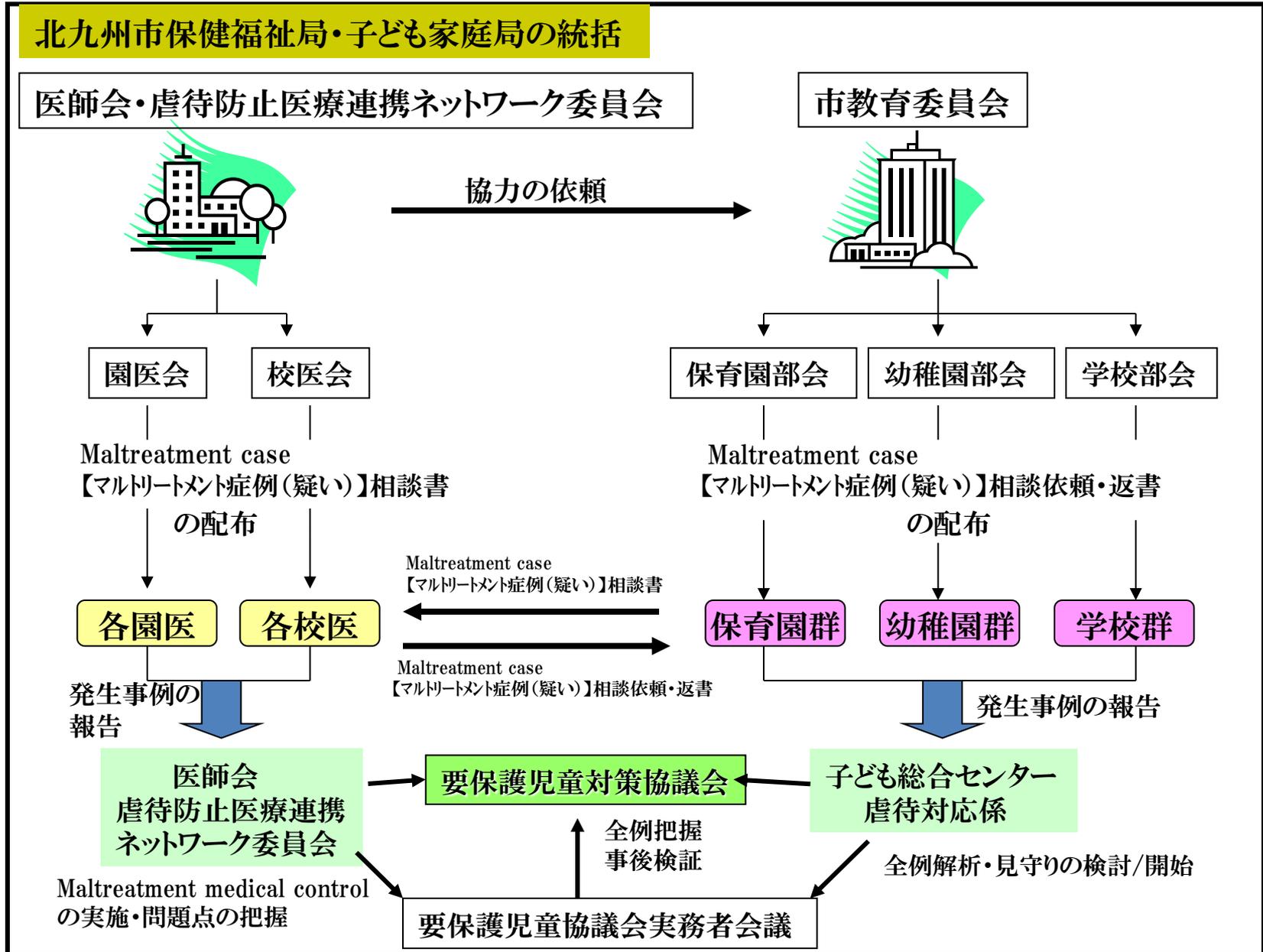
地域医療機関・虐待防止ネットワーク(病診連携ネットワーク)

地域連携クリティカルパスとして、活用



# 医療・教育機関(保育園・幼稚園・学校)連携施行実施図

(Kitakyushu Medical child abuse prevention network ; KM-CAP-N)



健やか親子21(第2次)推進協議会総会 (2016.3.16)

テーマ4「調査研究やカウンセリング体制の充実・ガイドラインの作成等」

## 活動報告

### 活動内容と今後の展望

幹事団体

公益社団法人 日本小児科学会

永光 信一郎

## テーマ④（チーム④）の基本姿勢

1. 健やか親子の活動を推進、有機的にするために参加団体の連携を強化すること（互いの団体内での活動内容を熟知すること）
2. 所属する団体内で、健やか親子21の活動を啓発していくこと

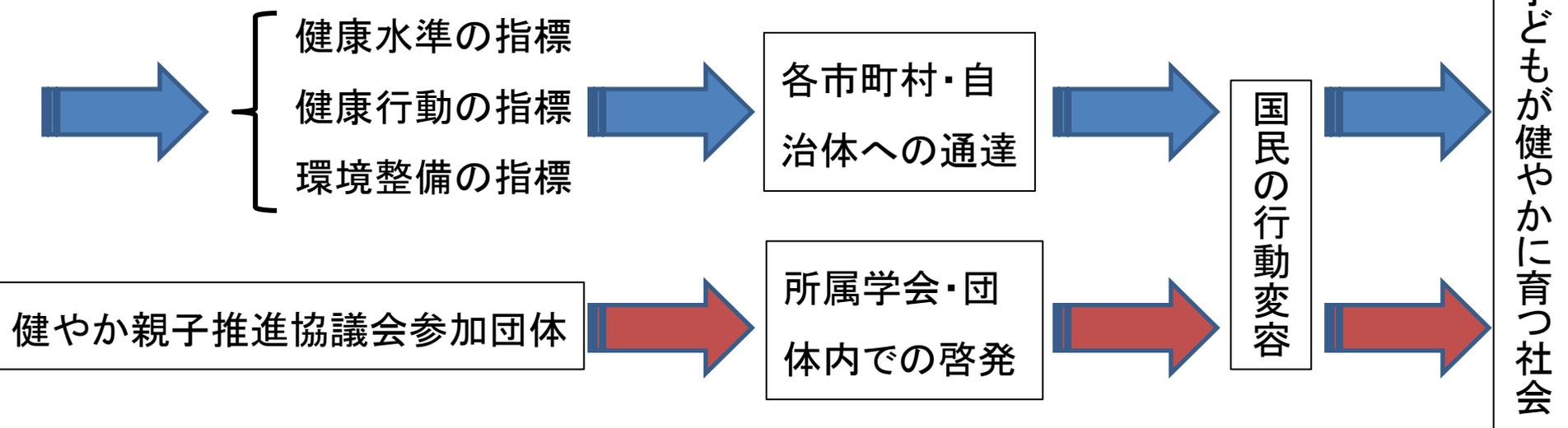
**チーム④を構成する学会・団体名**

1. 妊婦・新生児などいわゆる周産期医療を支援する団体
2. 乳幼児・学童など子どもの発達と心身を支援する団体
3. 学校保健（心理・性など）を支援する団体

◎日本小児科学会	（一般社団）日本母乳の会
○日本産科婦人科学会	（一般社団）日本周産期・新生児医学会
（NPO）SIDS家族の会	（一般社団）日本学校保健学会
日本子ども健康科学会（子どもの心・体と環境を考える会）	（一般社団）日本小児神経学会
（公益財団）性の健康医学財団	性と健康を考える女性専門家の会
全国保健所長会	日本糖尿病・妊娠学会
全国養護教諭連絡協議会	（NPO）日本小児循環器学会
（公益社団）日本看護協会	（一般社団）日本臨床心理士会
日本公衆衛生学会	日本生殖看護学会
（一般社団）日本小児看護学会	FOUR WINDS 乳幼児精神保健学会
日本小児救急医学会	一般社団法人日本新生児成育医学会
（一般社団）日本助産学会	日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会
（公益社団）日本助産師会	（NPO）日本小児外科学会
（一般社団）日本性感染症学会	日本母子看護学会
（公益社団）日本産婦人科医会	子ども療育支援協会

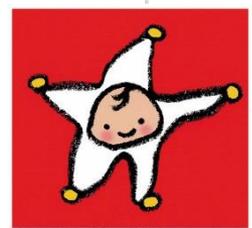
## 健やか親子21の学会・団体内での啓発について

- 基盤課題A 「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」
- 基盤課題B 「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」
- 基盤課題C 「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」
- 重点課題① 「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」
- 重点課題② 「妊娠期からの児童虐待防止対策」

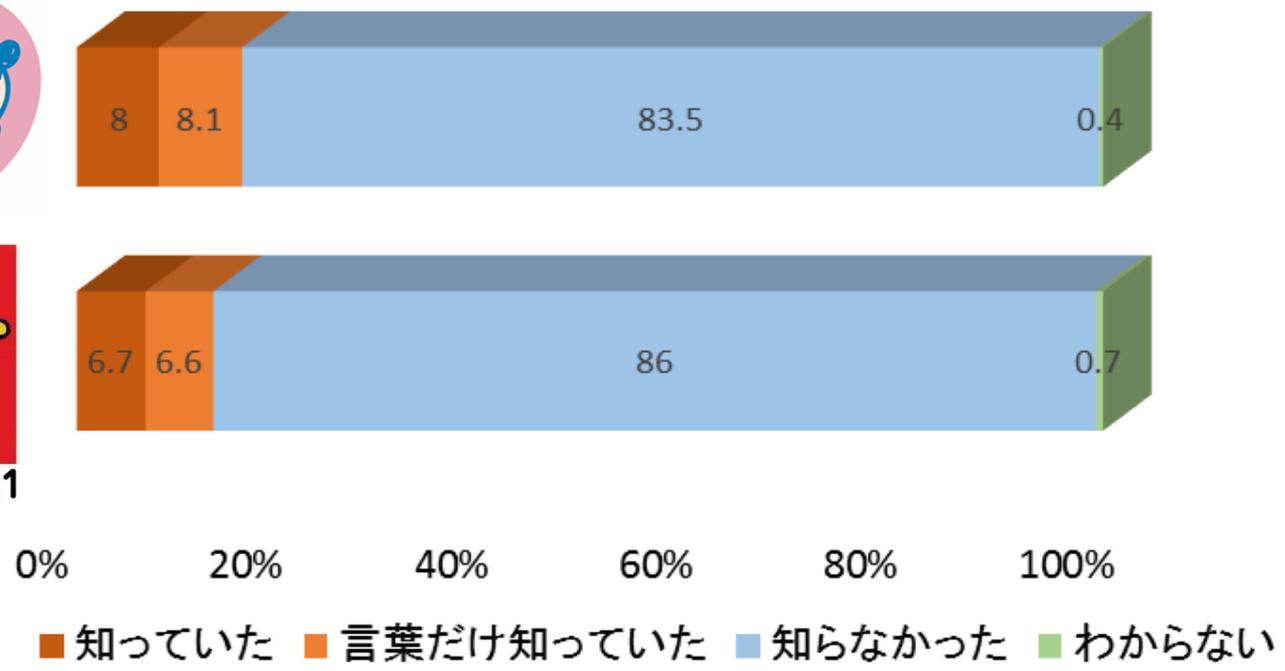


所属する団体内で、健やか親子21の活動を啓発していくこと理由

平成26年度内閣府世論調査



健やか親子 21



## 基盤課題A 「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策」

### 〈調査研究〉

- ・ 特定妊婦の実態調査
- ・ 乳幼児健診の質に関する地域格差の調査
- ・ 赤ちゃんにやさしい病院（BFH）の約4万人の調査
- ・ 産後母子への支援の必要性と実施実態についての調査研究
- ・ 母子保健情報利活用に関する研究
- ・ 乳幼児の精神保健に関する活動

### 〈カウンセリング体制の充実〉

- ・ 不妊症に関する相談・カウンセリング体制の整備
- ・ 出生前検査に関するカウンセリング体制の整備
- ・ 周産期領域の母子の精神保健に貢献できる臨床心理士の育成

### 〈ガイドライン作成〉

- ・ 母乳育児の実践ガイドラインの作成
- ・ 助産業務ガイドライン改訂
- ・ NICU/GCU退院児とその家族に関わり看護職にむけた教育プログラムの開発

## 基盤課題B 「学童期・思春期から成人期に向けた保健対策」

### 〈調査研究〉

- 学童・思春期の学校精神保健リテラシー教育に関する研究
- 思春期世代に対する性感染症罹患予防に関する活動
- 思春期のやせの要因に関する調査研究
- 思春期の自殺に関する実態調査

### 〈カウンセリング体制の充実〉

- リプロダクティブ・ヘルツ/ライツに関するカウンセリング体制の充実
- 思春期ピア・カウンセラーの養成研修
- 性の健康カウンセラーの養成事業

### 〈ガイドライン作成〉

- 思春期ピア・カウンセリング実践マニュアルの改訂
- 中高生向け性感染症予防啓発スライドの作成
- 教育者向け性感染症予防啓発スライドの作成

## 基盤課題C 「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」

### 〈調査研究〉

- 看護師が身近にできる子育て支援（病棟・外来・クリニック）
- 多職種による医療における子どもの最善の利益に関する活動
- 臨床心理士による子ども家庭支援活動
- 産科医師マンパワー不足解消のため方策
- 父親の育休取得による母親の就労支援に関する調査
- 学校医による学校保健の充実に関する調査研究

### 〈カウンセリング体制の充実〉

### 〈ガイドライン作成〉

- 子どもの事故防止の啓発の推進

## 重点課題①「育てにくさを感じる親に寄り添う支援」

### 〈調査研究〉

- 育てにくさを感じる親子についての類型化の調査研究
- 発達障害のアウトカムに関する転帰予後調査
- 育てにくさを感じる親が地域に求めている事に関する実態調査
- 発達障害を知っている国民の割合に関する実態調査

### 〈カウンセリング体制の充実〉

- 発達障害や子どもの心の診療を実施できる医師の養成
- 発達障害に詳しい教職員、心理士、の養成

### 〈ガイドライン作成〉

- プライマリケア医師がおこなう発達障害の支援方法
- 医療・教育・行政・福祉・保健などソーシャルキャピタルの充実

## 重点課題②「妊娠期からの児童虐待防止対策」

### 〈調査研究〉

- 妊娠前から周産期を通しての性感染症罹患予防に関する活動
- 特定妊婦の実態調査
- 産婦人科医－小児科医－精神科医の連携した母子保健支援対策
- 子育て世代包括支援センター設置による母子保健対策の推進

### 〈カウンセリング体制の充実〉

- 思春期からの母性保健・性教育の再考：未検診妊婦、望まぬ妊娠対策
- 子育て世代包括支援センター内における切れ目ない子育て支援の体制

### 〈ガイドライン作成〉

- 要保護児童対策地域協議会（要対協）における産婦人科医療機関・小児科医療機関・精神科医療機関の参画方法に関するガイドライン

## チーム④の円滑な活動に向けて

1. チームの連携強化のために、提案された研究テーマ毎にチームを組み、公的研究資金獲得を目指し、調査研究活動等を推進していく。
2. 互いの学会・団体を理解しあっていく目的で、所属する主たる学術集會に講師を互いに招請し合う。

# 日本母乳の会2016年の活動-1

1人でも多くの母子に母乳で育てられる幸せをテーマに活動。

- 第25回母乳育児シンポジウム・新潟を開催2016.7.30.31  
「母子へのやさしさ」をメインテーマに。約1000名の参加者。  
月1回、新潟実行委員会を開催(約4-50名の産科医、小児科医、助産師、看護師、行政)。シンポジウム開催はすべてボランティアで開催する
- 母乳育児支援研修会年に2回開催(2016.2月、10月)
- BFH(赤ちゃんにやさしい病院)とBFHを目指す施設のためのワークショップ開催(2016.3月)
- BFH認定ユニセフに推薦するための審査
- 第12回BFH施設連絡会議の開催
- 母乳育児支援のために施設に向いての支援

# 日本母乳の会2016年の活動-2

1人でも多くの母子に母乳で育てられる幸せをテーマに活動。

- 先進工業国BFHI会議(ジュネーブ)出席し、世界の母乳育児支援の人たちと意見交換し、日本の母乳育児を紹介する
- BFHの再評価の新しい仕組みづくり。
- BFH72施設の分娩・母乳育児のデータ収集、広報
- 母乳育児支援の書籍出版
- 妊娠中の乳頭ケアの有効性についての調査
- 乳頭・乳房ケアのDVD作成

# 健やか親子21推進協議会 テーマ④

## 「調査研究やカウンセリング体制の充実・ガイドラインの作成等」



公益社団法人  
日本助産師会  
Japanese Midwives Association

### ・現在進行中の活動内容

#### ・産後母子への支援の必要性と実施実態についての調査研究:

平成27年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「より効果的な妊娠出産包括支援事業としての産後ケアのあり方に関する研究」(平成27年度内に報告書とりまとめ予定)

#### ・母乳育児支援冊子作成:

「赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援」一写真でみる助産師のための「母乳育児成功のための10カ条」の実践一(仮称)(平成28年4月発刊予定)

#### ・助産記録の標準化と周産期医療安全のための冊子作成:

「助産録」ー記録と助産師の責任ー(仮称)(平成28年4月発刊予定)

#### ・母子支援のための助産師向け研修会の計画(平成28年度予定):

①地域での支援力向上研修 ②母乳育児支援 ③産後ケア

### ・今後の展望

- ・今年度の産後ケアのあり方に関する研究等を基にした研修会実施による普及啓発事業の実施(平成28年度)
- ・今年度の母乳育児支援冊子を基にした研修会実施による母乳育児支援の普及事業の実施(平成28年度)
- ・助産師調査(約9500名)による母子支援ニーズの把握(平成28年度)



日本小児神経学会

The Japanese Society of Child Neurology

## 健やか親子21課題への取り組み

### これまでの活動・現在の進捗状況

#### 育てにくさへの支援

子どもの要因への取り組み:「育てにくさ」の重要な因子である発達障害や発達に偏りのある子どもについて学会として取り組んできている。

#### 学童思春期の保健対策

#### 相談窓口の充実

家族がアクセスしやすい様に小児神経専門医および発達障害診療医師のリストをHP上に公開し、多数のアクセスがある。

#### 支援のための医師の研修セミナー

小児科医や総合医が支援を行えるように、医師等の教育研修会の開催  
「プライマリケア医(小児科医, 総合診療医)のための子どもの心の診療セミナー」  
「医療的ケア研修セミナー」

教育での不適応をきたす児の背景には発達特性、特に学習障害等の機能的な課題があることも多い。  
こうした特異的発達障害を重要な課題として取り組んでいる。

### 今後の展望

「育てにくさ」に注目した発達障害の児と家族への支援について、学会として取り組んでいく。

・多職種による「育てにくさ」への支援:学術総会での「育てにくさ」に着目したシンポジウムの企画を進める等して、多職種の連携を進める

# 臨床心理士の子ども家庭支援活動

子どもの発達促進・障害支援・療育

子育て母親のメンタルヘルス支援

保育園/幼稚園におけるカウンセラー

学校におけるスクールカウンセラー

不適  
応の  
改善

虐待  
防止

啓発  
協働

専門機関に所属するだけでなく、各地域で実施されている下記事業にも参加している。

- 乳幼児健診事業
- 地域子ども・子育て支援事業
- 市町村が実施する特別支援教育関連事業
- その他の子ども家庭支援関連事業
- 教育領域のスクールカウンセラー派遣事業

# 日本臨床心理士会としての取り組み

- ① 諸事業に参加・関与する会員の資質向上を目指して各種研修会の実施
- ② 臨床心理士関連3団体で子育て支援合同委員会を構成し、毎年研修会「子育て支援講座」を実施し、雑誌「子育て支援と心理臨床」(福村出版刊)の編集作業に協力
- ③ 会員の活動実態を把握し、政策提言に資するための各種調査研究

## 新規の 取り組み (予定)

- ① 健やか親子21の取り組みを会員に周知するために、研修会実施時のプログラムや資料集にロゴマークやパンフレットの掲載を進める。
- ② 周産期領域の母子の精神保健に貢献できる臨床心理士(心理職)を創出し、特に地域活動に従事するために必要な職能を明らかにするための基礎調査として、この領域で活動している会員に関する諸データを採集する。今年度は調査票を検討作成し、Web調査を実施する。

## テーマ4 活動内容と今後の展望 : 日本性感染症学会

### 現在進行中の活動内容

基盤課題・重点課題「学童思春期の保健対策」に関連した活動として、思春期世代を含む一般市民および、思春期世代を教育する専門職が活用できる性感染症予防啓発スライドを作成中

### 今後の展望

1. 学会内教育啓発委員会と共同し、上記スライドの普及啓発を通して、「学童思春期の保健対策」に関連した活動
2. 基盤課題・重点課題「切れ目ない妊娠期から乳児期の支援」「育てにくさへの支援」「妊娠期からの虐待防止」に関連した活動として、妊娠前から周産期を通じた性感染症罹患予防および、垂直感染の防止(母子感染による先天異常児の減少を含む)に寄与できる活動

# 日本子ども健康科学会 (子どもの心・体と環境を考える会)

子どもの心・体と環境をめぐって、従来の専門分野にとらわれない真の研究協力対策を築き、現場のニーズにこたえる研究を推進することを目指しております。

会員は、医療、教育、福祉、保健、司法、行政、心理、家族・・・と多領域にわたっています。

主な年間の活動は テーマ別研究会(数回)、学術大会(1回)、学会誌の発行(2回)です。

## テーマ別研究会「研究のあり方」

2015年12月19日(土)

### ・「研究入門:疫学研究を中心に」

中山 健夫

(京都大学大学院医学研究科健康情報学分野)

### ・「質的研究とミクスドメソッド」

### ・「公正な研究活動」

宮崎貴久子

(京都大学大学院医学研究科健康情報学分野)

## 第17回日本子ども健康科学会学術大会

平成28年(2016年)3月5日(土) 6日(日)

### 「増加する子どもをめぐり問題の理解と対応」

#### テーマ1;発達障害の研究と今日的課題

#### テーマ2;子どもの病的依存を考える

#### テーマ3;食物アレルギー児を支える多職種役割

子どもたちとご家族の笑顔のために・・・

文責:事務局担当 松崎くみ子

# 性の健康医学財団

人々の幸せのために、性の健康に関する医学の発展と、知識の啓発・普及に貢献します。

## 1.性に関する知識の提供

- ・機関誌の発行 求められる豊かなセクシュアリティと性の健康  
全国規模で行った妊婦のクラミジア感染の実態
- ・性感染症出前講座を中学校・高校などで行っています。

## 2.性に関する支援者の育成

- ・保健師・助産師・看護師・養護教諭の性に関する専門的知識の提供

医療従事者と養護教諭のための  
性の健康基礎講座

平成28年2月14日(日)

東京大学医学部講堂にて開催

テーマ:ストップ The 梅毒!

北村唯一 本田まりこ 尾上泰彦

齋藤益子 萬田和志 他

性の健康カウンセラーの養成事業  
基礎コース 4日間

平成28年9月3-4日,24-25日

応用コース 4日間

平成28年10月7-8日,11月5-6日

ロールプレイなど実技を入れたセミナー

## 3.性感染症に関する研究の推進と助成

調査研究 及び、研究者への助成金など 28年度はHPVに関する研究を推進

性病予防協会を発展拡充し、2021年に創立100周年を迎える本財団は、思春期からの性の健康を守るために幅広い活動をしています。

健やか親子21総会 2016年3月16日

テーマ④ 調査研究やカウンセリング体制の充実・ガイドラインの作成等

### 子ども療養支援協会 提案課題

- ◆ Patient and Family Centered Careの推進
- ◆ 子ども自身の意思決定支援につながる研究会及び研修会の開催

### ワークショップ

- 子どもの意思決定（周産期、思春期）：多職種で話し合おう！医療における子どもの最善の利益とは？

第4回日本子ども療養支援研究会

会 期 平成28年 6月4日（土）～5日（日）仙台市

会長 林 富（宮城県立こども病院院長）

「採血の前には、子どもにプレパレーション  
しましょう！」

# 日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会

## I 活動内容

### 1. 思春期ピア・カウンセラーの養成

都道府県での講座18講座及び各自治体を超えた1講座を開催し、思春期ピアカウンセラーを養成した。

### 2. ピア・カウンセラー養成者の養成及び養成者研修の開催

思春期ピア・カウンセラー養成の拡充を目指してピアカウンセラー養成者の養成及び、養成者のブラッシュアップのためのセミナーを開催した。

### 3. ピア・カウンセリング実践マニュアルの改訂

「主体的な生き方を支えるピア・カウンセリング実践マニュアル 改訂新版」(小学館)を改訂出版した。

## Ⅱ 今後の展望

- 思春期ピア・サポート活動と思春期ピア・カウンセラーの活動効果の検証

若者の特性が変化してきたといわれる現在、思春期保健や性の健康教育の向上の観点から、思春期ピア・サポート活動及び思春期ピア・カウンセラーの活動がどのような効果をもたらしているのかを検証していく必要がある。



日本学校保健学会(The Japanese Association of School Health)は、児童・生徒・学生の健康の保持・増進に関する学術研究と、その成果の普及・発展を図ることを目的に1954年に創設(2012年に一般社団法人化)されました。

近年、児童生徒のいじめや不登校などの心の問題、薬物乱用、エイズ、生活習慣の乱れなどの身体の問題が社会的な課題となりつつあり、その健康と教育を司る学校保健への関心が高まっております。本学会には、大学の研究者、保健体育教諭、養護教諭、栄養教諭、医師、看護師、保健師、栄養士等の会員が所属し、このような問題に科学的かつ実践的にこたえうる学会として各界の期待を集めています。

### 【本会の主な活動】

#### ●年次学術大会、講演会等の開催

(今年度は2016年11月19・20日筑波大学にて「学校保健学の知の創造と発信—子供たちの健康と安全を守り育てるために—」をメインテーマに、「学」としての学校保健の学術的知見の創造と発信に焦点をあてて開催する)

- 機関誌「学校保健研究」、英文学術雑誌「School Health」の編集および刊行
- 共同研究等本会の目的を達成するために必要な研究事業
- 地区学校保健学会その他関連諸学会との連絡・協力、情報の収集
- その他本会の目的を達成するために必要な事業 など

# 日本助産学会

日本助産学会は、助産学に関する知識・技術の学術的研究の発展を通して、母親と乳幼児その家族、女性のライフサイクルの各期における健康レベルで受けるケアの水準を向上させ、母子保健の向上に貢献することを目指し、活動を推進している。

## 健やか親子21 テーマ4に関する活動

- エビデンスに基づく助産ガイドラインの作成  
周産期の母子へのケアの質を保証するために、リサーチエビデンスに基づきスタンダードケアを示すガイドラインを作成している。2012年には分娩期の助産ケアガイドラインを完成させた。現在、妊娠期助産ケアガイドラインの作成および分娩期の改訂を行っており、2016年3月に発刊予定である。
- 周産期の母子および女性の健康に関する研究の推進  
健やか親子21のテーマに関連する研究を推進するため、年2件の研究助成を行っている。



# NPO法人 日本小児循環器学会

心臓病を持つ子どもたちとご家族が生涯にわたり幸せな生活が送れるよう、  
小児科・心臓外科・多領域専門職がチームとなって連携し、診断、治療、学校保健、成育支援に取り組む。

## 学術集会

### 第52回日本小児循環器学会総会・学術集会

テーマ「生命(いのち)を見つめ、心を紡ぐ医療を求めて」

会期: 2016年7月6日(水)-8日(金)

会長: 小川俊一(日本医科大学小児科)

市民公開講座開催予定

「こどもの生活の権利」をテーマとしたを開催予定

## 専門医活動

小児循環器専門医: 全国に約450名。(2015.4.1時点)

専門的で高度な小児循環器医療を全国で指導的に展開。

同時に地域と連携し、乳児期から成人まで、成長に合わせた

診療・カウンセリングを実施。

## 学術誌の発刊

年6回発刊、現在第32巻、完全電子化のオープンジャーナル

## ガイドラインの発刊

「学校管理下AEDの管理運用に関するガイドライン」

「小児期肺高血圧の診療ガイドライン」

「学校心臓検診のガイドライン」など発刊

## 研究委員会・分科会

「RSV感染予防の実態調査」「先天性心疾患の発生頻度調査」

「先天性心疾患患者における社会保障に関する研究」など、

16の研究委員会と日本胎児心臓病学会や成人先天性心疾患学会など10の分科会が活動。

## 委員会活動

### 社会制度委員会

心臓病を持つ子どもとその家族のために、胎児から成人まで生涯医療としてのわが国の社会制度・保障制度について検討提言。

### 蘇生科学委員会

学校管理下AEDの管理運用に関するガイドラインの作成。

### 学校心臓検診委員会

学校心臓検診のガイドラインの改定と制度改革への提言。

# 全国養護教諭連絡協議会

## 【本会の概要】

- 平成3年設立。各都道府県及び政令指定都市の国公立・私立学校養護教諭で構成される研究会で成り立つ研究団体。
- 会員数52団体約27,000人。
- 養護教諭として必要な資質や能力の向上を図るための研修や研究活動を推進する。多岐にわたる健康課題の解決と子供たちへのよりよい支援のために、全国各研究会との連携を密にし、教育職員としての養護教諭の専門性の発展を目指すことを基本方針とする。

## 【活動の重点】

### 1.研修活動の充実を図る

夏期研修会、研究協議会、学校保健連絡協議会を通して、養護教諭の職務や現代的健康課題の解決に向けた研修を行う。

### 2.調査研究活動の充実・発展に努める

健康教育の発展を目指した研究活動の充実を図るとともに、学校保健や養護教諭を取り巻く諸問題について、調査研究を行い、それらの結果を基に健康教育の発展を目指した研究活動の充実を図る。

### 3.養護教諭に関わる法的諸問題の改善に向けた取組を継続する

学校教育法をはじめ、養護教諭の資質向上を図るための法整備に向けて、要請要望活動を行う。

### 4.全国養護教諭連絡協議会組織の盤石化を図る

全国組織として、会の適正な運営に努めるとともに、関係機関との連携強化を図る。そのためには全国養護教諭連絡協議会が、他団体からさらに信頼される組織となるため、的確な会の運営を推進する。

### 5.広報活動の充実を図る

会報の発行やホームページの充実に努め、学校保健ならびに養護教諭に関する事柄について周知理解を図る。これらを通じて、全国の養護教諭の資質向上を目指している。



## 【テーマ4での活動】

- ・本会が実施している「養護教諭の職務に関する調査」結果が、ガイドライン作成等に参考になるのではないかと考える。今後さらに研究し、貢献できるよう活動したい。

## 平成27年度の取組み内容

## 今後の展望（平成28年度）

基盤課題Aについて

- ①平成27年度に日本看護協会が作成・公表した「2025年に向けた看護の挑戦—看護の将来ビジョン」に「健やかに生まれ育つことへの支援」を明記。看護職が役割・機能を果たし、切れ目ない支援を地域づくりを含めて実現することとした。
- ②「健やか親子21(第2次)」の指標について、47都道府県助産師職能委員長からの意見を集約し、今後の活動に反映。
- ③NICU/GCU退院児とその家族における小児在宅療養支援に関するフォーカスグループインタビューの実施(総合周産期医療センター・訪問看護ステーション看護職対象)を実施。次年度計画に反映。
- ④地域母子保健推進シンポジウム開催

全国の助産師や保健師らを対象に、有識者による講演や、妊娠・出産・子育て支援の切れ目ない支援に向けた、実践発表等の共有。

基盤課題A・C 重点①・②について

## ①被災地における事例検討会の開催支援

複雑困難化する母子をめぐる課題解決・虐待対応等の力量形成を目的として、精神科医および保健師といった専門家を派遣し、事例検討会の開催を支援。(福島県沿岸部の市町村保健師等対象)

## ②全国地域包括ケア推進大会の開催

全国の保健師らを主な対象に開催。地域シニア男性による育児支援事業の紹介など、子どもの健やかな成長を見守りはぐくむ地域づくりの実践や、推進に向けた保健師の取組等の情報共有。

基盤課題A・C 重点課題①・②について

- ①平成28年度重点事業のひとつに「地域包括ケアシステムの構築と推進」を設定。子どもと子育て世代を対象にした地域包括ケアの推進の一環として、子どもと子育て世代包括ケア推進のための地区別会議の開催(全国から公募)
- ②妊娠から子育ての切れ目ない支援に向け、全国保健師交流集会開催(平成28年6月9日予定)

基盤課題A・重点課題②について

- ①「NICU/GCUから退院する児とその家族の支援を考える」シンポジウムの開催(平成28年11月3日予定)

基盤課題Aについて

- ①分娩取扱施設が実施するウィメンズヘルスケアと助産師の関わり等に関する実態調査の実施
- ②NICU/GCU退院児とその家族に関わり看護職にむけた教育プログラムの開発

<基盤課題・重点課題>

基盤課題A 切れ目ない妊娠期から乳児期の支援

基盤課題B 学童思春期の保健対策

基盤課題C 健やかな成長を見守る地域活動

重点課題① 育てにくさ(発達障害含む)への支援

重点課題② 妊娠期からの虐待防止

# 一般社団法人日本小児看護学会

## 1. 現在進捗中の活動内容

- 本学会では、「健やか親子 21(第2次)」の達成すべき基盤課題のひとつである「子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり」をめざし、平成27～28年度の推進活動として啓発ポスターの作成に取り組んでいる。
- 啓発ポスターは、子育てをしている親が小児科外来やクリニックなどで身近に接する看護師を育児支援者として認識できるようにすること、また、看護師が育児支援者としての自覚を持ち子育て中の親に接することができるようにすることが伝わるものにしたいと考えている。
- そのため、啓発ポスターを作成するに際して、まず、7月に開催される第26回学術集会で、テーマセッション「看護師が身近にできる子育て支援—出会ったときが支援のチャンス—」を開催し、精力的に活動している病棟・外来での育児支援、クリニックでの育児支援について紹介し、それを受けてグループワークを行う予定である。テーマセッション参加者からの意見を反映させることに加えて、会員からポスターに掲載する内容のキャッチコピーを募集することにより、現在子育て中の親や看護師にインパクトのある啓発ポスターになると考えている。
- 啓発ポスターは、A3とA4で作成し、小児科外来を有する病院や施設への送付、健やか親子21推進協議会への配布、並びに学会HPからダウンロードできるようにする予定である。

## 2. 今後の展望

- グループ全体および他団体の動向をみながら、適宜、他団体と連携をとって、健やか親子 21(第2次)推進活動をすすめていく。

# FOUR WINDS乳幼児精神保健学会

- ・ FOUR WINDS乳幼児精神保健学会は世界乳幼児精神保健学会 (World Association for Infant Mental Health: WAIMH) の基本理念、「臨床現場を尊重し、母子に親身な専門的支援を行う」にそった活動を全国で推進し20年になります。周産期～乳幼児期の問題をすべて関係性」の視点から立体的に理解し、エビデンスに基づく有効な予防・早期発見・早期介入法の臨床研究を積み重ねています。
- ・ 本会の名は北極圏のラップランド人の民族帽子であるFOUR WINDS HATに由来します。1996年第6回WAIMHフィンランド世界大会に参加した日本の臨床家らが設立し、会員数は400余名です。会員は保育士、幼稚園教諭、保健師、教師、助産師、医師(産婦人科、小児科、精神科等)看護師、心理士、歯科衛生士、大学教員、施設職員、行政職など、母子の生活に身を置く臨床家が中心で、全国的な多職種の横断的連携が行われています。思春期の臨床家も多く、乳幼児期のこころの発達の理解が、思春期以降の問題解決に役立ち、乳幼児精神保健がライフサイクル全般にわたる人間学の基礎であるという認識を共有しています。
- ・ 元WAIMH理事の渡辺久子は2008年にアジア初のWAIMH世界大会を横浜で開催し、2014年に広く大学人や研究者に開かれたWAIMH日本支部を設立し、WAIMH賞を受賞しています。現場の臨床家がWAIMH関係者から最新の乳幼児精神保健を学べる日本では数少ない会として、現場の高いニーズに応えています。この間学術集会を各地で開催(高知、佐賀、長崎、宮崎、広島、山梨、岐阜、兵庫、鳥取、富山、静岡、横浜、東村山、栃木、福島、岩手、青森)し、20余名の世界的専門家が来日しました。大会開催地はその後地道な活動を継続しています。他にも年3回のセミナーにおいて国際レベルの乳幼児精神保健基礎研修を積み重ね、米国ミシガン州乳幼児精神保健資格認定制度の日本版の専門家養成プログラム作りに着手しています。東日本大震災後の被災地では、発達障害様症状を呈する乳幼児に早期介入し、発達障害とは異なる発達性トラウマ障害であることを現地の臨床家と共有し、被災後5年目の現在その子らは普通の発達に回復しています。
- ・ 今後の課題は、職種と地域のニーズに該当する研修内容の周到な吟味です。特に母子の生活現場(家庭、地域等)に質の高い支援を行うことをめざし、各地の実情に即したスピード感ある研修プログラム作りに取り組んでいます。多職種のコラボレーションによる関係性の視点からの母子の危機対応が急務と考えます。  
(文責:事務局長 小林順子)